



2025 年 4 月 22 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 エ ル テ ス
代表者名 代表取締役社長 菅原 貴弘
(コード番号：3967 東証グロース)
問合せ先 経営戦略本部 本部長 田中 英樹
(TEL. 03-6550-9280)

2025 年 2 月期 通期決算 FAQ

日頃より、当社にご関心をお寄せ頂き誠にありがとうございます。2025 年 2 月期通期決算について、実際に投資家の皆様よりお寄せ頂いたご質問に加えて、想定されるご質問に対する回答をご参考として開示するものです。回答内容については、時点のずれによって多少の齟齬が生じる可能性があります。直近の回答内容を最新の当社方針として回答を記載しております。なお、2025 年 2 月期通期決算説明資料等を以下にて公開しておりますので、御覧ください。

■決算説明資料の公開

2025 年 2 月期通期決算説明資料：<https://eltes.co.jp/ir/library/presentation>

2025 年 2 月期通期決算説明動画：<https://eltes.co.jp/ir/library/video>

■FAQ

Q.2025 年 2 月期通期業績をどのように評価していますか

<回答>

通期では、売上高 7,317 百万円、EBITDA 606 百万円、営業利益 93 百万円、経常利益 68 百万円、当期純利益 △860 百万円の着地となりました。また、第 4 四半期連結会計期間は、売上高が 20 億円を超えたものの、株主優待費用などの発生もあり、営業利益は 42 百万円の積み上げにとどまりました。

セグメント別の評価という観点では、AI セキュリティ事業の警備 DX 領域にて、トップライン伸長が計画通りに進まなかったこと、スマートシティ事業のプロパティ・マネジメント領域にて、管理物件数の減少から回復出来なかったことが業績に影響を与えました。上記課題に対して対策を講じているものの、安定的に収益を積み上げられる水準までは回復しておらず、2026 年 2 月期の重要な課題になると考えております。また、DX 推進事業は、順調に自治体との取引を増加させているもの、住民総合ポータルアプリを取り巻く市場環境には、変化が生まれており、そのスピードへの対応が今後求められていくと考えています。

一方で、デジタルリスク事業は内部脅威検知サービスの拡大とともにコスト適正化の動きが奏功し、エルテスの個別営業利益は、200 百万円となり、課題であった単体営業利益率も高まりつつあります。

Q.第4四半期に営業利益が伸び悩んだ理由はなにか

<回答>

第3四半期連結会計期間での営業利益は、112百万円でしたが、第4四半期連結会計期間の営業利益は42百万円の着地となりました。主な要因として、AIセキュリティ事業において北海道地域における積雪量が少なかった影響や首都圏における下期採用状況の鈍化で、売上高が伸び悩み、第4四半期連結会計期間のセグメント利益が△16百万円で着地したことや、株主優待費用として42百万円費用が発生したことです。

Q.特別損失の詳細とその影響について教えてほしい

<回答>

2025年2月期連結会計期間において、811百万円の特別損失を計上いたしました。主には、当社連結子会社である株式会社メタウンにおいて、2025年2月期の実績と当初想定していた事業計画の乖離状況を踏まえ、事業計画について慎重に検討した結果、649百万円の特別損失(のれんの一部を減損損失)を計上することとしました。また、当社連結子会社である株式会社JAPANDXが、自治体に展開している「DX-Pand(デクスパンド)」について、新地創交付金への制度変更に伴い、大幅な機能拡張と仕様の変更が生じ、事業計画の見直しを行った結果、99百万円の特別損失(固定資産の減損損失)を計上することとなりました。

なお、株式会社メタウンののれん減損によって、2026年2月期以降年間86.5百万円ののれん償却費が減少(営業利益に貢献)します。また、「DX-Pand」の固定資産減損によって、2026年2月期は年間47.8百万円の減価償却費が減少(営業利益に貢献)します。

Q.株主還元に対する考えはどのようなものか

<回答>

2024年4月28日に創業20周年を迎え、事業規模とともに新たなフェーズに入っていると考えております。2024年5月16日開示の「事業計画及び成長可能性に関する説明資料 中期経営計画2025～2027年」に記載の通り、収益性向上の早期実現により、健全な財務基盤を確保し、配当などの株主還元実施を目指していきたいと考えております。なお、2025年4月21日に新たな株主優待制度拡充を発表しておりますので、ご確認ください。今後も株主還元施策について、引き続き検討してまいります。

Q.AI セキュリティ事業のセグメント利益は、黒字化するのか

<回答>

AI セキュリティ事業は、警備 DX 領域と警備保障サービス領域の 2 領域で構成しており、セグメント利益は▲40 百万円となっております。警備保障サービス領域は、グループシナジーが高く成果が出ている採用活動への投資を行いながらも、M&A 実施以降、堅調に業績を伸ばしており、のれん後営業利益で 85 百万円と十分な収益性を確保できていると考えております。一方で、警備 DX 領域は、トップラインの伸び悩みが続いており、継続的な赤字が発生している状態です。この状況に対して、まず事業ポートフォリオの見直しを行い、成長可能性の高いサービスへのリソース投下を進め、トップラインを伸長させることで、警備 DX 領域での損益分岐点を超過することを最優先に取り組んでおります。現段階においては、2026 年 2 月期下期に警備 DX 領域の単月黒字化を想定しております。

Q.スマートシティ事業のセグメント利益は黒字化するのか

<回答>

スマートシティ事業の売上高は、8 割以上をプロパティ・マネジメント(不動産賃貸の管理運営)が占めております。今回ののれん減損を受けて、不動産売買を通じた管理物件の獲得が一定進むことで、セグメント利益の損益分岐点を上回ることができると想定しております。それら実現に向けた必要な営業リソースの確保等により、事業を軌道に乗せることで、2026 年 2 月期の業績に大きな貢献可能性を秘めていると考えております。なお、今回発表した 2026 年 2 月期通期業績予想における貢献度は、保守的に見積もっております。

Q.2026 年 2 月期業績についてどのように見込んでいるのか

<回答>

2026 年 2 月期業績は、売上高 8,200 百万円(前年同期比+12.1%)、EBITDA750 百万円(前年同期比+23.2%)、営業利益 380 百万円(前年同期比 307.2%)、経常利益 340 百万円(前年同期比 393.8%)を見込んでおります。まず、業績未達の反省から業績管理体制の強化を行い、従来の業績予想と比較して、相応に保守的な計画に修正しております。事業ごとの観点においては、2025 年 2 月期に引き続き、収益性高まるデジタルリスク事業(エルテス)が牽引する形を見込んでおります。また、2025 年 2 月期にセグメント利益で赤字着地となった AI セキュリティ事業、スマートシティ事業の利益貢献も保守的に見積もっております。

Q.相互関税の動きは、事業にどのような影響があるのか

<回答>

影響は極めて限定的であると考えております。当社グループは日本国内の企業向けにサービスを提供しており、相互関税が直接的に与える悪影響はほとんどないと現時点では考えております。一方で、相互関税の影響で日本経済にも下振れリスクが高まった場合においては、影響を受ける可能性があると考えております。なお、相互関税の動きが強まり、保護主義的な経済圏が広がった場合において、半導体等の重要技術情報保護の必要性が高まり、Internal Risk Intelligence(内部脅威検知サービス)が、企業にとって必要不可欠なセキュリティ対策との機運が高まる可能性も想定しております。

Q.守りの生成 AI 事業、AI シールドの展望について、どのように考えているのか

<回答>

まず、生成 AI 市場の広がりを受けて、デジタル空間は大きなパラダイム・シフトが起きていると考えております。その中で、新規事業ではありますが、デジタルリスク事業、とりわけ祖業であるソーシャルリスク事業が有するアセット(知見・顧客基盤・ノウハウ)を活用した取り組みであり、エルテスの強みが活かせると考えております。まずは、ソーシャルリスク事業が提供する SNS リスク研修や SNS ルール策定支援等のサービスを、生成 AI 領域に置き換えた事業(生成 AI の活用研修、ルール策定等)の展開を想定しており、守りの生成 AI 領域でのリーディングカンパニーを目指してまいります。

Q.AI シールド事業戦略アドバイザーに就任したカミロ・サンドバル氏にどのようなことを期待しているのか

<回答>

カミロ・サンドバル氏は、過去にホワイトハウスや米国空軍の国家安全保障局に在籍し、日本での勤務経験があることから、日本を含めた投資銀行におけるグローバルな事業戦略、M&A・資本業務提携の経験と、最新のサイバーセキュリティ業界に関する市場動向及び技術動向に関する知見を有しております。「AI シールド事業戦略アドバイザー」として守りの生成 AI 領域における新規事業立ち上げのために、プロフェッショナルな観点からアドバイス並びに支援を期待しています。

以 上